



一出板自由ナラソマテ望ム論

一教門論二三

一米國政教前號ノ續キ第三章各邦ノ教道憲法

一宗教

一ヒリモア萬國公法ノ内宗教ヲ論ズル章

明六雜誌 第六號



Small, faint text and markings at the bottom of the page, possibly bleed-through or a secondary title.

頃日吾儕盍簪シ或ハ事理ヲ論シ或ハ
異聞ヲ談シ一ハ以テ學業ヲ研磨シ一
ハ以テ精神ヲ爽快ニス其談論筆記ス
ル所積テ冊ヲ成スニ及ヒ之ヲ鏤行シ
以テ同好ノ士ニ頒ツ瑣々タル小冊ナ
リト雖_凡邦人ノ爲ニ智識ヲ開クノ一
助ト爲ラハ幸甚

明治甲戌二月

明六同社識

明六社雜誌第六號

○出版自由ナランヲ望ム論

津田眞道

野蠻ノ政治ハ人ヲ羈輓ス文明ノ民ハ羈輓ヲ免ル文野ノ別唯其民ノ言
行自由ヲ得ルト得ザルトニ於テ視ルベキノミ夫レ人ノ性靈本自由ナ
リ君子靜居天ヲ敬シ善ヲ思フ大惡魔王ト雖絶テ其自由ヲ障礙スル
能ハズ唯其言行ニ發スルニ方リテハ或ハ威權ヲ弄シテ之ヲ禁シ或ハ
法例ヲ設ケテ之ヲ制ス夫ノ威權ヲ弄シテ之ヲ禁スルハ野蠻ノ醜政今
之ヲ論外ニ附ス法例ヲ設ケテ之ヲ制スルハカノ半開ノ國專制ノ政治
ニ多クコレアリ或ハ文明ノ俗ト稱スル國ニ於テモ間聞ク所ナリ今聊
之ヲ論セントス

英亞諸國ニ於テハ人民眞ニ言行自由ヲ得タリ但己ノ自由ヲ專ニスル
爲ニ却テ他人ノ自由ヲ妨クルヲ得ザルノミ佛朗西等ノ諸國ニ於テ
ハ出版條例アリ官許ヲ經ルニ非レバ絶テ圖書ヲ鏤刻スルヲ聽サズ

元來佛朗西諸國ニ在リテハ處士橫議民論沸騰政府頗ル統御ニ苦シム
之ニ加フルニ政府數次顛覆ノ原職トシテ之ニ由ルニ似タリ故ニ政府
之ニ懲リテ強テ人口ヲ鉗シ永ク治安ヲ保タント欲スルニテ拿破崙三
世ノ猾智一時處置ノ宜シキヲ得タル者ニ似タリ然レモ最後計失シ術
尽キ孛ニ降虜トナリテ英ニ客死シ本國政治從テ又顛覆ス豈處置ノ宜
シキヲ得タリトセシヤ余ハ思フニ佛國政治數次顛覆ノ原由却テ人口
ヲ鉗シ自由ヲ妨クルニ在ルナリ今ヤ我國人文頗ル開ケタリト謂フト
雖未ダ佛國ノ十ガ一ニ及ハズ處士偶議論スル者アリト雖大率朝旨ヲ
迎へ相意ニ合スル者ニ過ズ豈陋ナラズヤ朝廷何ノ苦シムトカコソア
ラシク縱令處士ノ橫議佛國ノ如クナルモ朝廷ノ事ヲ處スルヤ須ラシク斷
然所見アル彼得大^{ペートル}ノ魯ニ帝タルビスマクル侯ノ孛ニ相タルガ如ナル
ベシ何ゾ其間處士ノ紛紜論議スルヲ憂ヘシヤ且ヤ政事ヲ誹謗シ罪惡
ヲ誣告シ他人ヲ罵詈スル如キハ朝ニ成典アリ至當ノ罰ニ處シテ可ナ

リ縦令出版條例アルモ年々數十百万言ノ鏤刻豈檢官逐一之ヲ調査ス
ルヲ得ンヤ其實ハ有名無實ノ徒法ナルニ似タリ余輩仰キ望ムヲク
ハ朝廷速ニ正大公明磊々落落日月ノ天ニ懸ル如キ政令ヲ出シテ以テ
出版自由ノ免許ヲ各人民ニ與ヘテ我國人民一層ノ眼目ヲ開キ不羈自
由ノ瞻畧ヲ大ニセシメンヲ蓋是開明ヲ進ムル最捷徑ナリ

○教門論三

西 周

或曰ク政府教門トノ脉絡ヲ絶ツ前論ノ如クシテ足ルカ曰ク其餘猶一
二ノ方法ニ從事セサルヲ得ス其一立政ノ大本ヲ明カシテ以テ連絡ノ
跡ヲ絶スソレ一統萬世ノ如キハ我國制度ノ大ナル者苟モ之ト相牴牾
スル者ハ嚴ニ之ヲ制スヘシ然レ言テ日神ニ托スルカ如キ頗ル秘魯ノ
舊王室ト相類ス亦鑑ミサル可ラス且國王ノ民ニ於ケル政治ノ大權ヲ
有スルハ其天職タレハ萬國ノ君主其權ヲ同ウスル者ナリ今之ヲ駕シ
テ上ラムトスレハ則チ強爲ニ属ス鴻臚部ノ應酬ニ至テ其名義乃チ乖

ク故ニ詔誥命令ノ間總テ此意ヲ體スヘシ其一儀注ノ官西洋ノ例國王
ノ宮中ニ隸シ禮典燕饗相贊ノ事ヲ司ル凡ソ祭祀廟祧ノ典禮ハ王者ノ
家事トス其異姓ノ神ノ如キハ其子孫之ヲ奉祀スルニ任セ亦政府ト相
關スルコトナシ如此クナレハ政府專ラ政治ノ權ヲ以テ自ラ任シ兼テ
文教ヲ明カニシテ以テ政治ノ資トナス則チ人智日ニ進ミ民ノ信スル
所亦令セスシテ自ラ高ク其鄙粗猥雜ノ惑溺ヲ離レテ純清簡潔ノ誠信
ニ至ラムトス亦何ソ政令ヲ以テ民信ヲ紊亂スルアラムヤ曰ク文教ノ
教門ト其別如何曰ク凡百學術ハ人智ヲ開明ニスル者ナリ教門ハ人智
ノ及ハサル所ニ根サシ信ニ發スル者ナリ故ニ文教ト教門トハ素ヨリ
天壤ノ別アリ然レモ文教愈々進メハ信スル所自ラ高シ譬ヘハ人ノ狐ヲ信
シ蛇ヲ信シ天狗ヲ信スルカ如キ苟モ禽獸ノ學ヲ攻ムレハ其妄即チ著
ハル雷電風雨ノ神ヲ信スルカ如キ電氣ノ學晴雨ノ學ニ通スレハ其疑
ヒ即チ釋ス血ノ池劔ノ山ヲ信スルカ如キ地質ノ學ニ通スレハ其信自

ラ熄ム太古口傳ノ説ヲ信スルカ如キ萬國太古ノ史ニ涉リ兼テ古界學
ヲ究ムレハ其誕自ラ明カナリ凡ソ如此キノ類ハ人智ヲ開キ明カシテ
以テ鄙粗猥雜ノ信ヲ去ル者ナリ如此クナレハ其信スル所自ラ純清簡
潔ニシテカノ治術ト相背馳スルコト莫ラムトス亦何ソ力壓ヲ以テ民
信ヲ強ユル之ヲ爲ソ

本文文意明瞭事理確切一ノ間然スヘキナシ蓋シ祭政一致政教一
途ノ迷病ヲ療スルコ足ルト云フ可シ唯文中天職ハ蓋シ支那半開
ノ文字ニシテ又能ク代神政治(テチカラシイ)ニ適ス恐ラクハ方
今文化開明ノ論ニ反セソ

加藤弘之

米國政教前號ノ續キ

○第三章各邦ノ教道憲法

加藤弘之譯

某二三邦ノ大憲ニハ眞ニ天神ノ存在ト未來ノ賞罰トヲ信スル者ニア

ラサレハ敢テ政府ニ舉ケテ官吏トナシ及ヒ裁判ノ證人ト爲ス可ラサル旨ヲ載定ス然レモ此法ハ全ク徒法ニ屬シテ絶エテ行ハル、トナシ且ツ北格阿利納^{カロリナ}及ヒ瑪理蘭^{メリランド}ノ二邦ノ如キハ輒近此法ヲ改革シ又他ノ數邦ニ於テハ曾テ大憲ヲ改正スルニ方テ其中ニ神道ニ隨從スル事ノ規律ヲ舉ケタル條款ハ總テ除去シタリ○新遮爾些邦^{ゼセル}ノ大憲ニハ凡ソ邦内諸教派中一モ特別ニ尊貴ナル者ナカルヘキ旨ヲ載定シ并ニ何ノ教派ヲ奉スル者ト雖モ政府ノ官吏トナリテ政務ヲ掌リ或ハ其委任ヲ受ケテ公事ヲ掌ルニ於テ決シテ妨ケナク及ヒ本人奉スル所ノ教道如何ニ由テ民權ノ數分ヲ與奪セラレ、カ如キヲ決シテナカルヘキ旨ヲ載定ス又其他數邦ノ大憲ニ至リテハ右ノ如キ明文ハアラスト雖モ其意ハ全ク相同シ○諸邦中一モ某一教ヲ以テ其邦教^按其邦專ラ奉スル^按其邦專ラ奉スル教道ヲ云フトナスヲ禁セサル者ナシ而シテ之ヲ禁スルノ方法ハ數種ニシテ或ハ大憲上ニ禁止ノ明文ヲ舉グル邦アリ或ハ議定^按立法府ノ議定ナリヲ以テ之ヲ

禁スル邦アリ或ハ輿論ノ默許及ヒ實行ヲ以テ之ヲ禁スル者アリ但シ
默許實行共ニ既ニ眞實ノ憲法トナレリ

各人自由ニ神道ヲ奉スル(但シ此自由アリト雖モ公衆ノ平和及ヒ道義
ヲ妨害スルヲ許サ、ルハ固ヨリ言ヲ俟タス)ヲ得ルノミニテハ未ダ十
分ノ奉教自由アリト爲スニ足ラス共ニ他教費用ノ爲メニ敢テ納
税セサルヲ得ルノ自由立テ然後ニ眞ニ十分ノ奉教自由アリト云フベ
シ

各邦ノ大憲及ヒ其枝葉ナル諸憲法ノ書ヲ查看スルキハ合衆諸邦中一
モ左ノ數件ニ舉クル所ヲ許ス者ナキヲ知ル可シ

第一邦教設立ノ憲法ヲ立ル

第二神道ノ學習ニ要スル費用ヲ償フガ爲メニ強ヒテ納税セシムル
一或ハ之ニ類スル

第三強ヒテ敬神禮拜ニ加ハラシムル

第四各人己レカ良心ノ欲スル所ニ從テ神道ヲ奉スルノ自由ヲ限制

スルヲ

第五神道ニ就テ自ラ是トスル所ヲ論述スルノ自由ヲ限制スルヲ

(クローリカ著セルコンスタチツーションヨ子ル、リミテーション 書名ナリ即チ國憲ヲ以テ政權ヲ限定

スルヲ看ル可シ)

合衆國ノ國憲追加第十四節ハ國內戰爭〔按〕數年前南北二部ノ戰爭ヲ云フノ後ニ議定

セシ者ナルカ本節ハ各邦ノ政府其臣民ヲシテ公事ヲ施行セシムルニ

敢テ其奉スル所ノ教派如何ヲ問フヲ禁スルノ文ト視做スヲ要ス蓋シ

コングレス〔按〕合衆國ノ立法府ナリ此禁止ヲ行フハ自ラ各邦ノ立法府ヲ制馭スル

ノ權内ニ屬スルヲ以テナリ○即チ其文ニ云フ「各邦ハ敢テ合衆國臣民

ノ特權及ヒ權利ヲ妨害スル所ノ憲法ヲ示令スルヲ得ス」ト又云フ「諸撰

擇(大統領副統領ノ撰擇若クハコングレスノ代議者或ハ各邦ノ政官及

ヒ法官ノ撰擇)ノヲアルニ方テ年齢二十一ニ届テ合衆國ノ臣民タル男

子ノ發言スル權利〔按〕撰擇ノ會議ニ加ハリテ所見ヲ述ル權利ヲ云フヲ剝奪シ或ハ之ヲ減縮スル

(但シ本人叛亂ノ黨ニ加ハリ若クハ他ノ重罪ヲ犯セル時ノ外)キハ各

邦ニ於テ權利ノ妨害ヲ受ケタル二十一歳以上ノ男子ノ員數ニ應シテ

各邦ヨリ出ル所ノ代議者ノ員數減少スルコト當然ナリ〔按〕撰擇者ノ員數

ノ員數多寡ノ差ト追加第十四節第二章ヲ看ル可シ

ヒアレハナリ各邦ニ於テ若シ其臣民中一部分ノ者ノ權利ヲ剝奪スルコトアルニ方テ

合衆國ノ權ヲ以テ之ヲ禁止スルキハ人或ハ之ヲ擅恣ノ處分ト云フ可

シ蓋シ合衆全國ノ權柄モ亦必ス限制シラル、所アレハナリ然レモ某

一邦ニテ其臣民ノ發言權利ヲ限制スルカ爲メニ其邦ノ政府罪ヲ被ル

コトアリモ敢テ之ヲ防拒スルノ權利ハ決シテ有ラサル可シ

國憲追加ニ此一節ヲ加ヘシハ素ト釋放ヲ受ケテ自由ノ民トナレル賣

奴ヲシテ各邦ノ擅制ヲ被ラサラシメンカ爲メニスル所ナリト雖モ本

節ノ意甚タ廣博ナルヲ以テ總テ臣民ノ諸權利ヲ保護スルニ足ルヘキ

條規ト視做シテ可ナリ○今上ニ舉ケタルカ如ク各邦ニ於テ合衆國臣
民ノ特權及ヒ權利ヲ限制スヘキ憲法ヲ創定施行スルハ敢テ許サ、ル
ノ制度ト及ヒ政府ノ官吏トナリ或ハ其委任ヲ受クル等ノコトハ絶エテ
本人奉スル所ノ教派如何ニ關係セサルノ制度アリ既ニ此ニ制度アレ
ハ縱令ヒ各邦ニ於テ政府ノ官吏ヲ舉クルニ本人ノ教派如何ヲ問ハン
ト欲スルモ決シテ能ハサルコト論ヲ俟タス但シ各邦若シ此政度ニ背イ
テ此ノ如キコトヲ爲スコアレハ最上等法院ハ必ス此處分ヲ裁判シテ追
加第十四節ヲ毀損スル者トナシ以テ全ク無益ノ處分ト視做サソコト敢
テ疑フ可ラス○然レモ恐ラクハ此ノ如キ處分ヨリ爭論ノ起ルコトハ絶
エテ有ラサル可シ但シ數邦ハ方今モ仍政府ノ職官ヲ授任スルニ本人
ノ教派如何ヲ問フノ制度ヲ保存スト雖モ久シカラスシテ或ハ之ヲ廢
シ或ハ措テ用ヒサルニ至ランコト更ニ疑フ可ラス○國家ハ固ヨリ教務
ヲ掌ル可キ者ニアラス猶政教ノ二務ヲ兼掌スヘキ者ニモアラス實ニ

純乎タル政務ヲ掌ルヘキ者ナリ蓋シ合衆國人民ノ徧ク知ル所此ノ如
シリーベル一千八百乙ニ生レ後米人トナルカ著セルシヒール、リベルチー書名ナリ
臣民自由
ノニ云フ「凡ソ神道ノ守護及ヒ其傳播ヲ掌レル者〔按〕教會全ク政府ニ
リ離分スルノ政度ハ實ニ米國ノ自由政度ナリ」ト

以下次號ニ載ス可シ

○ 教宗

森 有禮

津田君ハ宇内最良ノ一宗ヲ擇ヒ移シテ之ヲ我邦ノ公教ト爲スチ上策
トシ西君ハ教政各別ノ理ニ據リ宗教政府兩斷シ永ク宗教自由ノ權理
ヲ定ルチ以テ良謨トス余亦以爲ラク政府ノ職務ハ特リ人民ノ身體及
其所有ヲ保護スルニ在ルチ以テ凡ソ教事ハ人民各自ノ所好ニ隨テ爲
サシメ若シ之ニ由テ外顯他人ノ妨害トナル者ハ政府宜シク法ヲ設ケ
テ之ヲ制スヘシ余頃日公法大學士ヒリモア及ヒワツテル兩家ノ著シ
タル公法書中宗教之部萬國交道一國制度人民權理宗教弊害等ニ關カ

ル者數章ヲ得タリ今日之ヲ諸兄ノ評ニ附シテ此重件ヲ論定スルノ一具ニ供セント欲ス

明治七年四月一日

「ワツテル」萬國公法ノ内宗教ヲ論スル章(撮要)

第一 邦務及ヒ邦權

○人ノ心裏ニ住位スル宗教ハ心神ノ事務ナリト雖已ニ其外顯公立スル時ハ邦政ニ關スル事務ト爲ルナリ

○宗教ノ事ニ就テ人民自由ノ權ヲ有スルハ唯ニ其不好ノ宗教ヲ崇奉セス又官ノ強令ヲ奉セサルニ止ル決シテ自恣公行以テ世交ノ妨害ヲ爲スノ權ヲ有スルニ非ルナリ(以上五十六葉)

○若シ邦人皆神ニ奉仕スル時ハ必ス之ヲ敬禮セサルヘカラス宗教ヲ擇ヒ又且之ヲ崇禮スルノ法ヲ定ムルハ特リ其邦ノ權利ニ屬ス

○邦内ノ人一宗教ヲ好崇スル其數ノ半ニ過ル時ハ以テ之ヲ其國宗ト

定ムルコトアルヘシ

○國宗ヲ變シ或ハ新ニ之ヲ定ムルハ全ク其邦ノ權利ニ屬ス敢テ一人一己ノ權ヲ以テ之ヲ爲ス事ヲ得可ラス故ニ新教ヲ唱フルニ至テモ亦然リ人民若シ宗教ニ就テ異說アラハ必ス之ヲ其邦ノ主宰ニ致シ其命ヲ待ツヘシ(以上五十七葉)

第二 君長ノ義務及ヒ權利

○國宗未定ノ邦ニ於テ之ヲ新ニ定ムルニハ其君長ノ心ニ於テ最眞最良ト思フ所ヲ擇ヒ以テ之ヲ國宗ト爲スヲ得ヘシ是レ國君ノ一義務ト云ニ足ルヘシ蓋シ君長ハ百事國民ノ裨益ト爲ルヘキ事ヲ謀ルヲ以テ其職ト爲セハナリ然レモ還々之ニ由リ其威權ヲ以テ國民ヲ強令壓制スル等ノ權ヲ有スル事ナシ

○右ニ述ル如ク君長タル者宗教ニ就テ其權ヲ以テ國民ヲ強令スル事能ハスト雖若シ倫理ヲ破リ邦政ノ妨ケヲ生スル時ハ力ヲ極テ之ヲ抑

制セサル可ラス（以上五十七葉）

○君權ノ宗教ニ及フ者ハ其外顯ニ關リタル者ニ由リ生スル處ノ騷害ヲ抑制スルニアリ然レモ之ヲ抑制スル時ニ當テハ唯之ヲ鎮黙セシムル耳ニシテ聊威力ヲ以テ之ヲ壓挫スルニ非ス且又人民ニ強令シテ其不好ノ宗教ヲ崇奉セシムルヲ得ヘカラス若シ之ヲ爲セハ國民服セズ騷亂ヲ起スニ非レハ詐僞俗ヲ爲スニ至ルヘシ

○宗教ノ相異ナルヲ以テ生スル處ノ騷亂ヲ防クニ最良ノ術ハ倫理ヲ害セサル且邦政ニ妨ナキ宗教ヲ悉ク放許シ任意ニ之ヲ行ハシムルニ在リ異宗ノ故ヲ以テ人ヲ慘酷ニ處スルヲ禁シ且之ニ由テ人ヲ暴動スル者ハ嚴ク之ヲ罰スヘシ然レハ則異宗皆和シテ生樂ヲ國內ニ共ニシ互ニ良正ニ輔導スルヲ以テ專念ト爲スニ至ルヘシ

○宗教ノ世交ニ關ル至テ大ナリ國ノ主宰タル者ハ悉ク之ヲ監察シ又其教師ヲ管理スルノ權利ヲ有セサル可ラス世交邦政ノ要ハ必然其國

ヲ安保スルニアリ然レハ則君長此權利ヲ有スルノ事理判然ナリ之ヲ有セサラント欲スル國民明ニ之ヲ諾スルニアラサレハ得可ラス

○一國若シ其宗教ノ事ヲ管理スルノ權ヲ有セサレハ其國ハ獨立不羈ノ國ニ非ス其君主ハ唯ニ半君主ヲ以テ目スヘキナリ(以上六十六葉)

第三 宗教惑亂國家危險

○若夫レ宗教ノ如キ甚強ナル感化力ニ由テ熱中シタル黨類詐妄險害ナル教法ヲ主張シ以テ世人ヲ惑亂スルニ至ラハ災禍ノ汎濫スル其極何處ニ止マラン暗愚ノ信心ハ唯ニ迷妄固執惑亂殘忍ノ者ヲ生スルノ源ニシテ倫理ヲ亂リ交際ヲ害スルノ甚キハ實ニ彼ノ自恣ノ弊ニ百倍ス古來ヨリ下民ヲ壓挫シ又造化ノ法律ヲ踏碎シタル暴君管ニ眞神ノ榮耀ヲ口實トセシ者屢世ニ顯レタリ(五十五葉)

○其智力堅強ナラス其志向制御シ易キ人民ヲ以テ成立スル處ノ國ニ於テ苟モ妄想空思行ハレ愈信シテ其迷ヲ深スルニ至ラハ其結果又ソ

レ如何ソヤ人皆世事ヲ願ミヌシテ終ニ生業モ廢スルニ至ルヘシ(六十
三葉)

○諸國ノ僧徒其官職ヲ外國政府(即チ法王ヲ云)ニ仰ク者多シ是レ其國
ノ固有ノ權利ヲ犯シ政法ノ公道ニ戾ル者ナリ(六十七葉)

○(羅馬法王管轄ノ僧徒等從屬ノ有様ヲ記載スルノ末ニ以下ノ文アリ)
僧徒ハ萬事ニ付テ常ニ此法院ノ怒ニ觸レサル様戒心シ能ク其歡心ヲ
得ントテ務ム而テ法院ハ力ヲ盡シテ此徒ヲ支ヘ其威權ヲ用ヒテ之ヲ
輔ケ其敵ニ向テ之ヲ護リ又其ノ權利ヲ制限セント企ル者アレハ直ニ
之ニ反シテ之ヲ保護スル耳ナラス其國君ノ憤怒ニ向テモ尙ホ之ヲ庇
蔭スルトテ常トス如此ニシテ僧徒ノ皈服ヲ一層堅實ニシ又他國ノ臣
民及ヒ高官ニ在ル者ヲシテ半ハ之カ臣隸タラシムルニ至ル豈之ヲ世
交ノ通義ヲ破リ政法ノ基礎ヲ動カスト云ハサルヘケンヤ有識ノ國君
ニシテ豈如斯ノ宗教ヲ容ルヘケンヤ然ラハ則支那國ノ宣教師ヲ驅逐

スルモ還タ異ムニ足ラサルナリ

第四 僧徒關係規則

○僧徒ハ尊敬ヲ受ケシムヘシ然レモ些少モ之ニ權力ヲ假スヘカラス
固ヨリ之ニ獨立ノ權利ヲ要求スルヲ許ス可カラズ第一ニ彼等ヲシテ
他ノ人民ト齊ク其業モ亦他ノ業ニ於ルカ如ク悉ク政府ノ權下ニ屬セ
シメ而シテ之ニ對シテ其行狀ノ責ヲ負ハシムヘシ第二ニ其國君タル
者ハ人民ヲシテ宣教師ヲ尊敬セシムル様注意シ宣教師ヲシテ其本職
ヲ務ムルニ要用ナル威望ヲ保タシムヘシ在昔賢明ノ羅馬國ニ於テハ
議政官ノ中ヨリ大教師及ヒ重立タル教師ヲ撰ヒタリ是ニ由テ羅馬人
ハ僧俗ノ區別アルヲ知ラス又別ニ一種異様ナル長袖民族ヲ置カサリ
キ(六十四葉)

第五 各人通義

○各人自己ノ所好ニ任セテ宗教ヲ撰ハ實ニ緊要且自然ニ得ル處ノ自

由ニシテ他人ノ命令ノ及フ所ニ非ス若シ威力ノ以テ之ニ及フ者トセ
ハ其信ノ種類果テ如何トカ爲ム夫レ心性ノ蘊奧ヨリ眞神ヲ認メント
勤メ又之ヲ尊崇スルノ情義ヲ有スルハ則チ人生ノ本然ナリ是ニ由テ
世交ニ混入スト雖決シテ此情義ヲ放チ得可ラス又之ヲ行フニ緊要ナ
ル自由ヲ失フ可ラス是レ本然侵シ難キノ通義ナリ今ニ至リ尙斯ル眞
理ヲ證スルヲ要スルハ實ニ人間面目ノ無キ甚キ者ト謂ベシ

○若シ國宗ニ異ナル宗教ヲ信スル人民其數甚タ多カラス然モ政府之
チ國內ニ許シ置クチ不可ト爲ス時ハ其異宗人民各其所有ノ土地ヲ賣
却シ家族ト共ニ其國ヲ去リ又總テ其家産ヲ擣去スルノ通義ヲ有スヘ
シ蓋シ世交國法ノ公權ト雖モ決シテ之ニ由テ人ノ性心ヲ殘フルト能
ハス若シ世交國法其放チ難キノ情義ヲ守リ又之ヲ自由ニ行フ事ヲ許
サ、レハ亦之ニ許スニ國ヲ去ルノ權利ヲ以テセサル可ラス(五十七葉)
○宗教ハ外顯ニ關ル事ノ外ハ決シテ政府ノ事務ニ非ス中心ノ宗教ハ

各人自己ノ事務ナリ世交ヲ妨ケ亂ルニ非レハ誰モ之ヲ制シ且罰スル
一ヲ得可ラス而シテ人其私説ヲ發スルニ他人ヲ誘動シ黨類ヲ立ル故
ニ非レハ之ヲ罰スルヲ能ハス若シ之ニ罰ヲ加ル時ハ國君ノ處置實ニ
不正ノ甚キ者ト云ヘシ(五十八葉)

「ヒリモア」萬國公法ノ內宗教ヲ論ズル章(撮要)

柴田氏譯

○萬類ノ動物中人類ヲ除クノ外一モ上帝ノ上帝タルヲ識ル者アルヲ
ナシ「人類ハ縱令暴虐野蠻ノ種族ト雖モソノ尊信スル所ノ神ノ正邪ハ
姑ラク措キ神ヲ拜スルヲ知ラザル者ナシト「シセロ」ノ説ニ見エタリ
「ヒリモア」萬國公法第二
卷三百二十一葉ニアリ

○物理ノ要スル所人ト教トハ人間ノ幸福ニ於テ互ニ相連結スルヲ以
テ之ヲ擔當スベキ人ノ督理ニ多少相從ハザルヲ得ズ「故ニ「グロチユス」
判然説テ曰宗教ノ益ハ原來上帝ノ恩德ヲ講解スルニ專ラナリト雖モ
人間ノ交際ニ於テモ亦其功力甚ダ大ナリト「是ヨリシテ「プラト」ハ深ク

ソノ道理ヲ推シ宗教ヲ指テ政權ノ保障性法ノ鍵鎖ナリト云ヘリ
三百二十

二葉

○予敢テ言フ一國ソノ國教ノ情狀ニヨリ他教ヲ禁ズルヲ以テ其國ノ
本分トナスハ妨ケナカルベシト然レモ之ガ爲慘酷ノ所業ヲ施スモ可
ナリト云フニハアテズ」宗教ノ用ハ人ト上帝トノ交感ニ止マルノミナ
ラズ凡世間ノ事業之ニ依テ端緒ヲ開クノ裨補アリ且宗教ハ專ラ人ノ
本心上ニ歸スルト雖モ亦生民行狀ノ根底トナルベキ者ニシテ終ニ人
道ノ第一義ニ歸ス」某國ノ他教ヲ禁ズル必竟自國ノ平安ヲ保ツノ主意
ニ出ルガ如キハ即之ヲ禁ズルノ權利アリ(以上千八百十二年第四月「ロ
ルドウエレスリー」ガ貴族議院ニ於テ述告スル説ニ係ル 三百二
十二葉)

○教會ノ説諭ニ曰凡人民該撒シイサルノ物ハ咸該撒ニ上帝ノ物ハ咸上帝ニ歸
スベシト又曰世ノ官職ハ上帝ノ設クル所ナリト又曰凡人民タル者ハ
管ニ責罰ノ爲ニ敬服スルノミナラズ殊ニ良心ノ爲ニ敬服スベシト云

宗教ノ事ニ與聞スル權利ヲ論ズル章 (撮要)

上回教征戰ノ名實ニ就テハ倘深ク推究セザル可ラズ又耶蘇ノ宗徒タル者ハ理明カニ論正シク且事勢止ヲ得ザルニ非ザレバ敢テ凶器ヲ弄セズト云ヘルコトアリ是吾輩ノ未ダ信ゼサル所ナリ(以上「ギッボン」ノ説ニ係ル)

右ハ著名ナル歴史家ノ説ニシテ耶蘇教士ノ君士但丁ノ事ニ係ル蓋シ

此説ハ眞道ノ基本ニ依レリ「ヒリモア」萬國公法第一

ヒリモア」萬國公法第一
コンスタンチンボル
卷五百十六葉ニアリ

○同宗ノ教ヲ奉スル緣故ヲ以テ事ニ與聞スル權利ニ於テ區別スベキモノアリ此區別事ニ於テ肝要ナリトス「耶蘇教ヲ奉スル一國コ、ニアリソノ教ト同派ノモノヲ信ズル某宗徒ノ爲ニ此徒ヲ管轄スル他國此モ亦耶蘇教ヲ奉ノ事ニ與聞セント要スルハ則ソノ理アリ是區別ノ一也又耶蘇教ヲ信ズル總宗徒ノタメ若クハソノ一宗徒ノ爲ニ異教ヲ信

ズル他國ノ事ニ與聞セント要ス亦ソノ理アリ是區別ノ二ナリ

七葉

○此類ノ與聞(耶蘇教諸國ノ間ニ就テ云フ)ノ特理ハコレヲ至要ノ諸盟

約中ニ加フ是ヲ以テ一定ノ權力ヲ生シタリ同五百十八葉

○與聞ノ一事ハ大抵ソノ土地ノ住民ヨリ之ヲ求ムルヲ常トス宜ク注

意スベキナリ同五百十九葉

○コノ道(即與聞ノ權利ヲ云フ)ハ倘更ニ之ヲ擴充セザル可ラズト云ヒ

且宗教ノ事ニ就テ衆人ヲ凌虐スル國アラハ兵力ヲ以テソノ事ニ與聞

スルモ萬國公法ノ許ス所ニシテ恰モ國亂久シク息マズ流血杵ヲ慄ハス

ノ日ニ當リ兵力ヲ以テ其國ヲ勸解處分スルト同日ノ論ナリト云フ此

二說ニ至リテハ何レモ當ニ辨論セザル可ラズ

右等ノ事件ニ至リテハ他國ノ内政ニ與聞セザル善政ノ度外ニ置ベキ

者ナリ故ニ此種ノ事ヲ謀ルハソノ實甚ダ危シトス同五百廿葉

○上故ニ周密謹慎ナル「マルテン」説アリ曰總テ宗教ノ事ヨリ端ヲ開キ
或ハ宗教ノ事ニ托シテ起シタル戦争ハ左ノ四件ヲ表ス「外國ト戦端ヲ
開キシ原由ハソノ實宗教ノ事ノミニアラズコレ其一ナリ政法ト教權
ト一致スルキハソノ國果シテ教論ヲ起ス是ソノ二ナリ政法上ノ事故
ノ爲ニハ宗教ノ執念モ忽チ退却スコレ其三ナリ政法ノ爲ニハ直チニ
教權ニ反對シタル舉動ヲナスモノ少ナカラズ是ソノ四ナリ

○「セントプリースト」(千七百六十八年ヨリ千七百八十五年マデ土耳
其國ニ在留セシ佛國ノ使節)曾テ東方ニアル天主教徒ノ爲佛國主ノ行
ヒシ護教ノ法ヲ論ズソノ言ニ曰抑我國王ハ東方ノ天主教ヲ保護スル
ノ説ヲ唱ヘテ信教ノ念ヲ節ルト雖モソノ實ハ僅ニ外貌ノ虚飾ニ過ザ
ル耳故ニコノ事態ニ徹底セザル徒ヲシテ迷ハシム又佛國ノ君ニ土國
人ノ宗教ニ與カルノ權利アリトハ土國ノ君モ絶テ想像セザリシ所ナ
リ我先官「レ、マルキス、デ、ボンチ」氏此事ノ建言中ニ云ヘル「アリ曰他

國ノ君主トソノ交リ懇親ナリトモソノ國教ノ事ニ至リテハ與カラシム可ラズ此事ニ就テハ土國ノ人モ尙他國ノ人ト同シク大ニ感覺スル所アラント抑佛國ノ土國ヲ待スルヲ見ルニ友誼懇親ニ因ルノ外更ニ他意アラズ故ニ土國ノタメニ害アル約ハ立ベカラズコノ理領解シ難キニアラズ是ヲ以テ我指令書ノ中ニモ首トシテ土國ノ嫌疑ヲ醸スベキ諸事ヲ避ケ宗教ノ事ニ拘ハル條款ニ至リテハ殊ニ過多ノ寛裕ヲ與ヘタリ

此一事ニ關スル公法中ノ真理ヲ證スルニハ右ニ引用セル證據ノ外更

ニ是ヨリ正確ナルモノアルベカラズ 同五百二十葉

○歐羅巴ノ通商ヲ妨ケ且ソノ平穩ヲ擾セシ希臘國ノ戰爭ヲ平ゲンガタメ耶蘇教ノ諸大國魯西亞國ト俱ニコレヲ和解鎮定セリ蓋シ歐羅巴諸國ノ和解ヲナセシハ希臘國ノ求ニ應シタルナリ 同五百廿八葉

稟 白

一代價ハ每号不同に付豫め決定仕兼候得共前金にて發兌號方先二十冊分御引受ハ一割引五十冊分ハ一割半百冊分ハ二割引にて蓋上過不足ハ追て筭當の上可申上候

一府下にて御望の方ハ町所名前御投書次第發兌毎に配達可仕遠國ハ府下にて御引受の御方より前金郵便税共受取不申内ハ遞送不仕候

明治七年三月

東京藥研堀町
賣捌所 報 知 社

東京日本橋釘店
取次所 和泉屋壯造

目
六
第
一
冊